

太陽光

風力

バイオマス

小水力

地熱

農山漁村再工ネ法



宮崎県日之影町 おおひと 大人発電農業協同組合

— 地域の伝統を守り次世代に伝える、出会いが生んだ小水力発電 —

課題

地区住民の高齢化により、明治時代に建設された農業用水路の維持管理や、地域の伝統芸能である神楽や農村歌舞伎の存続が困難に。

地域の 合意形成

2年間に渡って、集落で出前講座や臨時総会を実施。最終的には、地域資源を活用した再工ネ事業によって、先人達が切り開いた田畑や文化を次世代に継承していくことで全員が合意。

地域外 の協力

再工ネ先進地域（鳥取県）からの知見提供や、サポート事業者（福岡県）の調査設計等、地域外の協力を得ることで事業を確実化。

売電 収益

売電収益は、農業用水路の維持管理の他、公民館活動の支援や伝統芸能の維持に活用。今後は、後継者問題対策にも活用予定。

point

設 備 概 要

- 発電種類 : 小水力発電 (クロスフロー水車)
- 発電出力 : 49.9kW
- 発 電 量 : 約32万kWh/年 ※予定
- 建 設 費 : 約9,500万円
- 資金調達 : 補助金を活用し、残額は日本政策金融公庫と宮崎銀行との共同融資及び自己資金で対応。
- 運転開始 : 2017年11月

事業概要 (経過)

2013年 ~ 2014年

農林水産省補助事業を活用し、地域の合意形成、発電場所の選定、導入可能性調査及び概略設計を実施。

2015年

県単事業及び地方創生推進交付金を活用し、発電量の可能性調査と詳細設計を実施。水車の輸入や除塵機の自作により、発電設備のコストを削減。

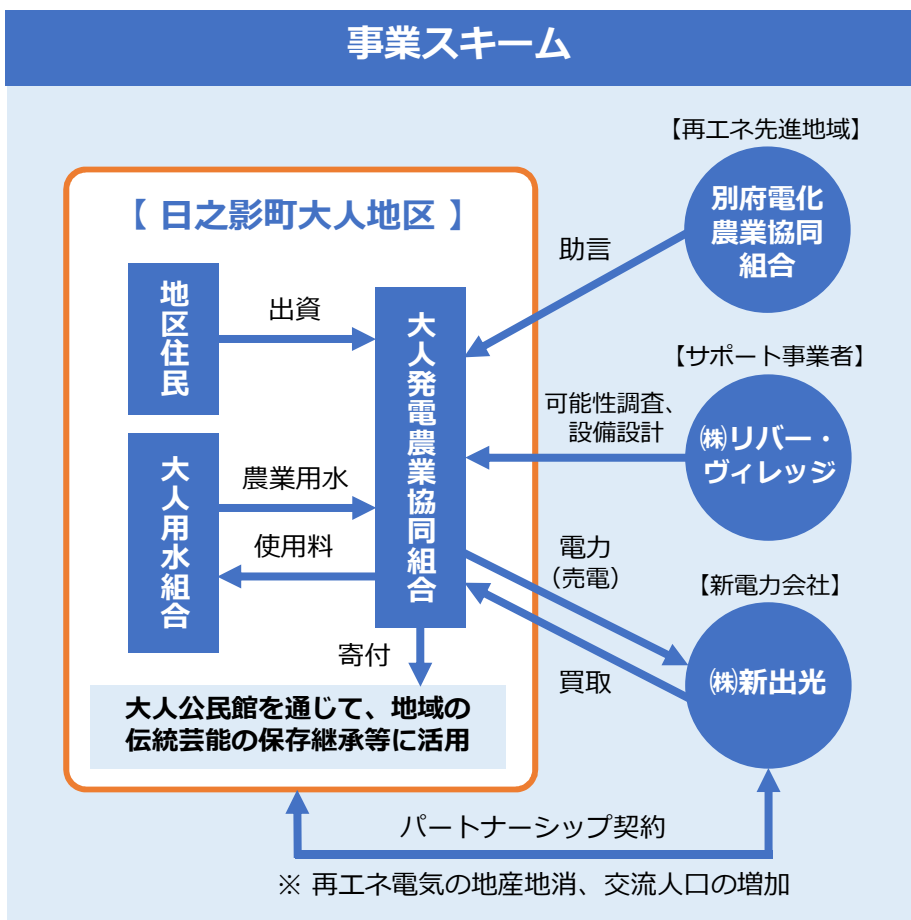
2016年

組織として発電事業が継続される仕組みを構築し、金融機関からの信頼を得るため、知見提供を受けた別府電化農業協同組合にならい、発電農業協同組合を設立。

2017年

6月に着工し、11月に発電開始。地区の昔の名称と、一つに集うという意味を込め、発電所の名称は『大日止昂 (おおひとすばる) 小水力発電所』に。

事業スキーム



その他の効果

発電前は、水管理を巡って上流と下流の住民間で意見が合わないことがあったが、地域活性化の資金確保のため、地域が一体となって取り組んでいくことで合意。

地域内の各ブロックに水管理の責任者を設置し、節水意識をもった適切な水管理を行うことで、当初の事業計画になかった渇水期の発電を実現。